

昔、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとに出でて遊びけるを、大

人になりければ、男も女も恥じ交はしてありけれど、男はこの女をこそ得めと思ふ。女はこの男をと思ひつつ、親のあはすれども聞かでないありける。さて、この隣の男のもとよりかくなむ、

筒井つの井筒にかけしまろがたけ過ぎにけらしな妹見ざる間に

女、返し、

くらべこし振り分け髪も肩過ぎぬ君ならずして誰か上ぐべき

など言ひ言ひて、つひに本意のごとくあひにけり。

さて年ごろ経るほどに、女、親なくたよりなくなるまに、もろともにいふかひなくてあらむやはとて、河内の国高安の郡にいきかよふ所出でにけり。さりけれど、このもとの女、悪しと思へるけしきもなく出でしやりければ、男異心ありてかかるにやあらむと思ひうたがひて、前裁の中にかくれるて、河内へいぬる顔にて見れば、この女いとうよう仮粧じてうちながめて、

風吹けば沖つ白浪たつた山夜半にや君がひとりこゆらむ

とよみけるをききて、限りなくかなしと思ひて河内へもいかずなりにけり。

まれまれかの高安に来て見れば、はじめこそ心にくもつくりけれ、今はうちとけて、手づから飯匙とりて、筒子のうつは物に盛りけるを見て、心憂がりていかずなりにけり。さりければ、かの女、やまどの方を見やりて、

¹ 傍線は読解に役立つ重
要語。数字は単なる注
釈ではなく読解で意
識するポイント。タイ
トルも段番号も元々
は書かれてないので、
教科書によって違い
がある。

きみがあたり見つつを居らむ生駒山雲なかくしそ雨はふるとも

といひて見いだすに、からうじて大和人、来むといへり。よろこびて
待つにたびたび過ぎぬれば、

君来むといひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものこひつつぞふる

といひけれど、男住まずなりにけり。